

平成25年度第2回 被服学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日 時：平成26年2月24日（月）12：00～14：00
II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室
III. 出席者：阿部委員長、山口委員、伊佐治委員、渡部委員、鈴木アドバイザー
（事務局）井端事務局長、森下、松本

IV. 資料

- 資料① 平成25年度被服学教育FD/ICT活用研究委員会の活動計画
資料② 次回までの課題
資料③ 被服学教育における教育改善モデルへのアンケート結果
参考1 大学の卒業認定厳しく（新聞情報）
参考2 高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について（第四次提言）
参考3 教授会の権限、4項目に（新聞情報）
参考4 授業に「タブレット革命」（新聞情報）
参考5 FSP 実践講座の授業内容と運営の工夫（Future Skills Project 研究会活動報告）
参考6 私立大学等改革総合支援事業 配点区分表
参考7 ムーク（MOOC）と反転授業がもたらす学びの変革～米国サンノゼ州立大学の挑戦～
参考8 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準家政学分野
その他 平成25年度委員名簿、平成25年度第1回被服学教育FD/ICT活用研究委員会議事概要

V. 議事内容

1. 教育改善モデルのアンケートの検討について

- (1) 資料②により第1回の委員会の課題を検討した。結果下記の通り到達目標1と5の文末の太字部分を修正した。また、関連文章も修正した。

【学士力の考察】（修正が無いため省略）

【到達目標1】（到達目標、解説、到達度②の下線部分を修正）

1. 被服の歴史・文化や被服の社会的、保健衛生的役割を理解し、被服の着用などによるイメージを思考することができる。

ここでは、被服が持つ多様な役割を理解させるため、科学的、社会的、保健衛生的観点から総合的に考察する能力を身につけさせねばならない。そのためは、被服の歴史や文化的背景を理解させた上で、自己表現や他者との関係の調和、精神的なやすらぎなどを総合的に捉えられることを目指す。

【到達度】

- ② 被服の着用イメージや感性の表現ができる基礎能力を身につけている。

【到達目標2】（コア・カリキュラムのイメージ、到達度①と②、測定方法①と②の下線部分を修正）

2. 人体を把握し、人体と被服との関係や被服構造を知り、被服の構成力を身につけ被服パターン設計に活用できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

被服構成学、被服人間工学、被服衛生学、パターン設計、縫製など

【到達度】

- ① 被服構成の基礎を理解して、被服設計ができる。
② 人体の構造と機能を理解して、被服形態との関連を説明し、機能評価ができる。

【測定方法】

- ①は、筆記試験及び実技試験などにより確認する。
②は、レポート、筆記試験などにより確認する。

【到達目標3】（修正が無いため省略）

【到達目標4】 (修正が無いため省略)

【到達目標5】

5. 被服の生産、流通、消費における環境問題などを理解し、未来に向けたより質の高い衣生活を提案できる。
- (2) (1) の課題以外についても再度見直しを行った。
【測定方法】にポートフォリオを加えるかを検討したが、一般的な内容と被服分野の作品歴では固有の到達度と異なることから、修正しないこととした。

2. 今後の研究の進め方について

参考6の私立大学等改革総合支援事業配点区分表について報告し、今後大学教育の質向上に必要な「アクティブ・ラーニングによる授業の実施」について研究する必要性を確認した。アクティブ・ラーニングは、被服系では作品製作などで既に行われているが、更に学生が主体的に学び魅力ある授業を設計するための研究集会を、平成26年度に検討し実施する。

内容は、ケーススタディを通して意見交換を行う対話集会はどうかとの意見がでた。

時期は、7月 2, 3月は除く。

3. 次回の委員会

日時：4月12日(土) 10:00～12:00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室